

**[成果情報名]モモの早生新品種「さくひめ」の宮崎県における特性及び低温要求量**

**[要約]**宮崎県では「さくひめ」は「ちよひめ」と比較して開花が早く、6月上旬に収穫できる。また、果実重はやや重く、糖度も高い。開花率が高くなる低温要求量はチルユニットで848ユニット、低温遭遇時間で約600時間である。

**[キーワード]**モモ、「さくひめ」、低温要求量、低温遭遇時間、チルユニット

**[担当]**宮崎県総合農業試験場・果樹部

**[代表連絡先]**電話 0985-73-2121

**[分類]**研究成果情報

**[背景・ねらい]**

農研機構果樹茶業研究部門が育成したモモ新品種「さくひめ」は、早生で良食味の果実生産ができ、新たな需要が期待される。そこで、本県における「さくひめ」の品種特性を把握するため、「ちよひめ」との比較を行う。また、本県における低温要求量を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「さくひめ」の樹姿及び樹勢は中程度で、花芽の着生は多く、花粉を有し、いずれも「ちよひめ」と同程度である(表1)。
2. 「さくひめ」の果実は玉揃いがやや良で果形は短楕円である。果皮の着色は「ちよひめ」と同程度であり、核割れ果の発生は極めて少ない(表1)。
3. 「さくひめ」の開花盛期は「ちよひめ」より9~19日早く、果実の生育日数は「ちよひめ」より9~16日長く、収穫盛期は「ちよひめ」とほぼ同時期の6月上旬である。果実重は「ちよひめ」よりやや重い傾向が見られ、糖度は「ちよひめ」より高い(表2)。
4. 2016年秋季から2017年春季の宮崎県(宮崎市佐土原町)における、開花率が高くなるための低温要求量は、チルユニットは848ユニット、低温遭遇時間は608時間である(表3、図1)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 「さくひめ」は、2017年2月9日に品種登録出願公表された品種である。
2. 本成果は農研機構果樹茶業研究部門育成系統の系統適応性検定試験によって得られた成果である。供試樹は、「さくひめ」が2010年に1年生を栽植したもの、「ちよひめ」が15年生の成木を用いたもので、育成系統適応性検定試験調査方法に基づく、露地栽培の火山灰土壌における無袋栽培の結果である。
3. 開花率は、採取した長果枝を温度20度、湿度80%の人工気象器内で水差しして調査した結果である。
4. 低温要求量は休眠覚醒に必要な低温の量で、各温度に重み付けの異なる値を割り振りして、1時間毎に積算したチルユニット(CU)と、7.2℃以下の時間を積算した低温遭遇時間(CH)で算出している。2016年10月1日に温度測定を開始し、チルユニット積算値は11月24日0時が最小値である。
5. 「さくひめ」は低温要求時間が555時間(育成地調べ)と短いので、県内全域を対象とする。ただし、開花が早く、せん孔細菌病にやや弱いので、晩霜の恐れがある地域及び風当たりの強い園地での栽植は避ける。

[具体的データ]

表1 宮崎県における「さくひめ」の樹体特性

品 種	樹姿	樹勢	花芽の着生	花粉の有無
さくひめ	中(直立と開張の間)	中	多	有
ちよひめ	中(直立と開張の間)	中	多	有

表1 つづき 宮崎県における「さくひめ」の果実特性

品 種	玉揃い	果形	果皮着色	果肉色	果汁	裂果	核割れ
さくひめ	やや良	短楕円	多	乳白	多	無	無~極少
ちよひめ	やや良	短楕円	多	乳白	多	無	中

表2 宮崎県における「さくひめ」の生育及び果実品質

品 種	年度	開花盛期	収穫盛期	生育日数 (日)	収量 (kg/樹)	果実重(g)		果形指数 (縦径/側径)	着色歩合	糖度(Brix)		酸度(pH)	
						平均	平均			平均	平均		
さくひめ	2014	3月3日	6月2日	91	13.2	160.8		1.05	8.4	11.3		4.6	
	2015	3月13日	6月9日	88	33.1	171.8	166.7	1.01	9.4	10.8	11.2	4.6	4.5
	2016	3月11日	6月2日	83	24.8	167.4		1.02	8.7	11.5		4.3	
ちよひめ	2014	3月22日	6月5日	75	48.2	148.0		1.00	8.0	10.1		4.6	
	2015	3月22日	6月9日	79	61.3	157.5	148.7	1.03	9.7	9.5	9.9	4.9	4.7
	2016	3月25日	6月6日	73	56.6	140.5		1.03	9.2	10.0		4.6	
有意性	-	-	-	-	-	-	ns	-	-	-	*	-	ns

注)検定により\*は5%水準で有意差あり

表3 枝採取日における低温要求量(チルユニット、低温遭遇時間)

枝採取日	チルユニット(CU)	低温遭遇時間(CH)
2017.1.23	696	461
2017.1.29	783	541
2017.2.4	848	608

注)CU積算値が最小となった日から算出

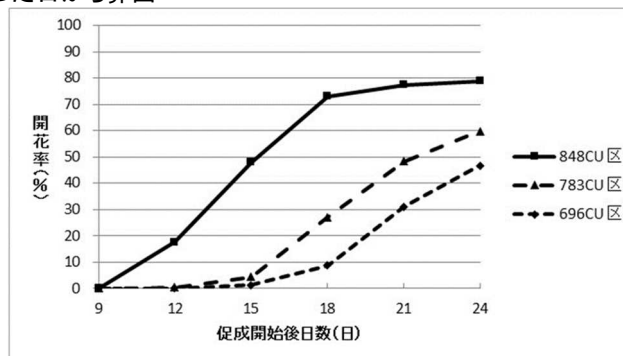


図1 加温開始時の低温要求量(チルユニット)と開花率の変化

(山口秀一)

[その他]

課題名: 温暖化対応品種の選定と生理障害への対策技術確立

予算区分: 県単

研究期間: 2014~2018年度

研究担当者: 山口秀一、生頼由喜男、佐藤吉史、松浦絵美、栗野太貴、伊藤俊明

発表論文等: